南区

南区丹那町の被災地

被害の概要

南区内の一部の地域では、浸水被害が発生し、広島駅周辺ではJR西日本等の公共交通機関が運転を見合わせたことにより、帰宅困難者が生じた。区域の南側から南東側にかけての地域では、集中豪雨による土石流、がけ崩れが発生し、南区全体で、人的被害は死者1名、住家被害は116棟（全壊11棟、半壊30棟、一部破損18棟、床上浸水19棟、床下浸水38棟）、非住家被害は16棟（全壊8棟、一部破損1棟、床上浸水5棟、床下浸水2棟）に及んだ（平成30年11月1日現在）。

特に楠那学区、似島学区では、がけ崩れや土石流が集中的に発生し、複数の家屋、道路等が被害を受けた。楠那学区の丹那町では、住宅の裏山が崩れ、押し寄せた土砂により、住宅20棟のうち13棟が被害を受け、うち1棟は全壊し、住宅内にいた女性1名が犠牲になった。

また、似島学区では、土石流、がけ崩れで複数の住宅が壊れ、道路が寸断された。集落の入り組んだ狭い路地には大型の重機は入れず、土砂のかき出しは島民やボランティア等による手作業で進められ、復旧に多大な人員と時間を要することとなった。

区災害対策本部の設置

7月5日、1時34分に大雨注意報発表により注意体制をとり、職員2名が参集、9時21分に大雨警報発表により警戒体制をとり、職員7名が終日職場で待機した。翌7月6日14時5分、広島市に土砂災害警戒情報が発表されたため、南区災害警戒本部を設置し、14時17分に、南区16学区のうち、土砂災害危険箇所等を有する11学区(大河、黄金山、仁保、青崎、向洋新町、段原、皆実、楠那、宇品東、元宇品、似島)に、15時19分に洪水浸水想定区域にある2学区(荒神町、大州)に対して避難準備・高齢者等避難開始を発令していたところ、楠那学区でがけ崩れが発生したとの通報を受け、17時25分、区長判断により南区災害対策本部に移行し、楠那学区に避難勧告を発令した。

区災害対策本部各班の活動状況

■本部

南区災害対策本部は、区長を本部長として、副本部長（副区長、厚生部長、建設部長）、本部員（医務監、区政調整課長、地域起こし推進課長）、7つの班（情報連絡班、調査・応急対策復旧班、輸送班、避難収容班、救援救護班、食糧班、医療救護・援護班）で組織した。

7月6日、17時25分に区役所本館4階講堂に区災害対策本部を設置し、本部長の指揮の下、副本部長と本部員、7つの各班の班長、副班長、班員や南消防署、南警察署等の職員が集まり、各班共通認識を持つよう被害状況一覧表や各避難所の運営状況等の情報を大きく掲示し、状況確認を行った。

その後も随時、本部員会議を開催し、被害の状況把握や復旧状況、避難所運営状況の確認を行い、共通認識を図った。その後は、順次地域の安全性が確認できた場所から、避難勧告、避難指示（緊急）を解除するとともに、指定緊急避難場所を閉鎖した。なお、住家が被災し自宅での生活が困難となっていた避難者がすべて退出した8月20日に最後の避難所を閉鎖し、8月27日に区災害対策本部を廃止した。

■情報連絡班

区政調整課、地域起こし推進課、会計課、似島出張所の職員で構成され、本部の総括、市本部及び関係機関との連絡調整に関すること、情報の収集及び伝達に関すること、避難情報の発信に関することなどを担当した。楠那学区の避難勧告発令時には、パトロールカーによる現場広報を実施した。

発災後は市民からの問い合わせ、被害報告、防災情報メール配信、報道機関への対応、他機関からの問い合わせ等への対応に追われた。

また、7月9日からは罹災証明書の受付窓口、7月11日からは被災者支援総合窓口をそれぞれ区役所内の会議室に設置し、それら窓口との連絡調整を行った。

■調査・応急対策復旧班

維持管理課と地域整備課の職員で構成され、1班2～4名の調査チームを編成して対応した。今回の災害では、区民等から多数の被災情報が寄せられたことから、この情報に基づき、現地に出向いて被災状況を調査・確認し、写真撮影後、災害対策本部への報告にあわせて、南消防署及び南警察署と連携し、必要に応じて通行規制や土のう設置などの応急措置を行った（7月6日から7月24日の間の通報件数の内127件は建設部による対応）。

特に、被災した楠那学区、元宇品学区、似島学区では、車両が不通になった道路について、災害協力事業者に指示し、土砂撤去に取り組んだ。

■輸送班

建築課の職員で構成され、輸送車両は、常時5台を使用し、予備車両として3台確保していた。

業務内容は、①避難所開設のため、1か所あたり従事者2名と避難所開設用具一式を各避難所へ送致、②避難所従事者交替要員に係る要員の送迎及びタクシーの手配、③避難所及び広島港への物資の輸送、④避難所撤収に係る従事者及び避難所開設用具一式の回収である。

なお、輸送班の人員だけでは、迅速な対応を行うことが困難な場合もあったため、その際は、他の班の協力を得ながら業務を遂行した。

■避難収容班

生活課（保護係）及び本庁等の職員で構成され、平成30年7月6日から9日までの4日間、18か所の指定緊急避難場所を開設し、厚生部及び本庁各局等の職員延べ162名を動員し、避難の誘導、避難者の収容（最大約617名が避難）及び避難者に係る連絡調整を行った。

7月10日の避難勧告及び避難指示（緊急）の解除に伴い、すべての指定緊急避難場所を閉鎖したが、住家が被災し自宅での生活が困難となった世帯が避難していた楠那小学校、丹那集会所、元宇品集会所及び似島集会所については引き続き避難所として開設（7月13日に楠那小学校から、南区スポーツセンターに変更）し、閉鎖する8月20日までの42日間、延べ253名の職員を動員し、救援物資等の調達及び提供を行い、避難生活を支援した。

■救援救護班

市民課及び生活課（庶務係）の職員で構成され、業務の内容は、避難所への物資の調達・配付を行った。

楠那小学校、丹那集会所、元宇品集会所及び似島集会所の避難所からの要望または不足する物資の報告を受け、区災害対策本部において取りまとめの上、市災害対策本部（健康福祉局健康福祉・地域共生社会課）へ報告し、調達でき次第、提供した。

また、個人・団体から寄付を受けた物品についても、それぞれの避難所へ提供した。

■食糧班

保険年金課の職員で構成され、区災害対策本部において、調達すべき食料の必要数量、品目、配達場所を取りまとめた上、4か所の避難所へ提供した。

■医療救護・援護班

健康長寿課及び保健福祉課の職員で構成され、7月7日から8月18日まで6か所の避難所に保健師が常駐ないし、巡回し、医療・保健・福祉ニーズの把握、熱中症や感染症予防等の啓発、健康相談等を実施した。

また、民生委員や地域包括支援センター等と連携し、7月19日から、避難所退所者のうち要支援者及び被害の大きかった楠那学区、似島学区を重点的に保健師が個別訪問し、健康相談や生活支援策の情報提供を行ったほか、児童相談所の協力を得て、心理療法士による子どもの心のケアを行った。

関係機関との連携

区災害対策本部設置後、南消防署及び広島南警察署の職員が本部に詰め、被害状況、災害対応状況についての情報共有や各機関との連絡調整を行うとともに、必要に応じて道路の通行規制や土のうの設置などを連携して行った。

南区社会福祉協議会では、7月10日に南区役所別館に南区災害ボランティアセンターを設置し、派遣要請等の対応を行い、似島地区では被災後、直ちに地元の有志が集まり災害ボランティアセンターを設置した。また、区災害対策本部としては、楠那学区に設置された楠那サテライトボランティアセンター及び似島地区災害ボランティアセンターに土のう袋等の物資を提供した。

9月30日の南区災害ボランティアセンター閉所までのボランティア数は、似島地区で延べ約4，000名、楠那地区で延べ約1，100名にのぼり、連日、被災者支援活動を実施した。

また、施設管理者及び地元の協力を得て、似島中学校の校庭、出島東公園などを一時的な土砂の仮置き場所として使用した。

避難所の開設・運営

7月6日14時5分、本市に土砂災害警戒情報が発表された後、14時17分に土砂災害の危険性のある11学区に対して避難準備・高齢者等避難開始を発令するとともに、指定緊急避難場所を開設した。15時19分には府中大川の水位上昇に伴い、洪水浸水想定区域のある2学区に対して避難準備・高齢者等避難開始を発令し指定緊急避難場所を開設した。

避難勧告、避難指示（緊急）発令後、避難者は増え続け、他の避難場所も開設する必要が生じ、計18か所の指定緊急避難場所を開設し、ピーク時の避難者数は計617名となった。

また、7月10日の避難勧告、避難指示（緊急）の解除後においても、住家が被災し自宅での生活が困難となっていた被災者のために、楠那小学校、丹那集会所、元宇品集会所及び似島集会所の4か所を避難所として開設した。なお、楠那小学校については、猛暑であることや避難者の体調を考慮し、7月13日から空調設備の整った南区スポーツセンターに避難所を移し、避難者の荷物等の移動は、自主防災会、民生委員児童委員協議会、楠那小学校の児童等が中心となって行われた。

8月20日に、全ての避難者が退所したため、最後の避難所であった南区スポーツセンターを閉鎖した。

避難所からは、衣類や長靴、歯ブラシなど、各個人が日常生活で必要なものから、避難所の運営に必要な、タオル、ハンドソープ、殺虫剤、虫よけスプレー、傷テープなど、また、避難所での栄養の偏りを防止するための野菜ジュースなど、多種多様な要望があった。

これらの調達については、各避難所からの要望に基づき、経済観光局を通じ、または直接量販店から購入し、提供した。暑さ対策としては、支給されたスポットクーラー、冷蔵庫や避難所の施設管理者が所有する扇風機で対応した。また、個人・団体から寄付を受けた物品についても各避難所へ提供した。

さらに、地域の自主防災組織において、避難者への炊き出しなどの支援を行った。

避難所（楠那小学校）

被災者相談窓口

7月11日から、各種の申請手続き、支援の相談及び申込みができるワンストップ型の窓口として、被災者支援総合窓口を設置した。南区においては、常設窓口として区役所、楠那小学校に、巡回窓口として似島集会所、元宇品集会所、丹那集会所に設置した。

各窓口での受付件数は、区役所175件、楠那小学校67件、似島集会所48件、元宇品集会所27件、丹那集会所2件となっており、主な相談内容としては、罹災証明書の発行、見舞金の支給に係る申請手続きに関するものや仮住宅の提供、宅地内の土砂等の撤去に係る支援に関するものが多くあった。

復旧・復興に向けて

道路・公園等の災害復旧について、直ちに災害協力事業者に要請し、災害発生の翌日から着手した。

[道路]

区民生活への影響が大きい道路の開通を最優先した。南区では、道路の崩壊や落橋等の道路施設自体への致命的な損傷が少なかったため、土砂撤去や大型土のう設置等により、比較的早い段階で主要な道路は開通できた。

復旧に際して、特に似島学区や楠那学区の重機が入らない狭い路地については、地域の住民やボランティアによる土砂撤去活動が復旧を進める大きな力となった。

[公園]

黄金山緑地など公園・緑地の法面崩壊により土砂が民地や道路・水路等に流出した箇所については、災害協力事業者に指示して土砂撤去や土のう設置を行った。法面が不安定な箇所については、法面の災害復旧工事を行う予定にしている。

[似島地区]

似島においては被災直後、電話回線の不通、島内の主要道路の寸断により、現地調査が困難となり、被害の全容を把握することが難しい状況であったため、船やヘリコプターによる調査により被害状況を把握した。また、土砂災害が多発し、道路や家屋に多くの被害が生じ、重機が入れない場所の初期対応については、島民や似島地区地域おこし協力隊員、独自に募ったボランティアにより復旧作業が進められた。

[全体]

現在、応急復旧は完了しているが、引き続き道路、公園等の本復旧を行っており、国や県が行う砂防堰堤の整備や急傾斜地崩壊対策にも協力して、被災地の復興を進めている。

（いずれも平成30年12月末現在）

復旧作業の様子（似島）

『地域の防災意識 高める』

南区長　漆原（うるしはら） 正浩（まさひろ）

南区災害対策本部では、気象情報を常時収集し、区内の道路や河川の状況変化を注視するとともに、決められた基準に従って避難情報の発令や防災情報メールの発出ができるよう先を見越して準備できたと考えています。春に実施した災害対策本部運営訓練が役立ちました。

しかし、大変残念なことに、避難勧告を発令する基準に達する前に丹那地区で土砂崩れが発生し、1名の尊い命が失われてしまいました。

このことは、現在の基準は、地形等を考慮したきめ細かな土砂災害危険度判定ではないといったこともありますが、科学的に被害を予測することには限界があることを示しています。

今回の災害で得た教訓は、住民自らが、周囲の異変に気付いて勇気を出して避難することができるかどうかで、生死を分ける可能性があるということです。勇気を出して避難するためには、人間には正常性バイアスという精神作用があるため、日頃からの心構えだけでなく、家族や友人・知人等からの後押しが有効であることも分かってきています。実際に、今回の豪雨災害において、地域における避難への声掛けにより多くの人が救われた事例が報告されています。

近年、災害の規模が激甚化し、我が国のどこにいても大災害に見舞われるリスクが高まっているように思われます。

今回の災害の経験を風化させることなく、地域で語り継ぎ、地域全体で災害に備えていけるよう、地域の自主的な防災・減災に向けた取組を住民と一緒になって取り組んでいきたいと考えています。

南区の概況

南区は太田川デルタの南東部を中心とした区域で、広島市の陸と海の玄関であるJR広島駅と広島港を有している。似島や金輪島などの島しょ部とともに、桜の名所として知られる比治山や黄金山があり、比治山には自然景観と調和した現代美術館やまんが図書館がある。

JR広島駅南口周辺地区は、広島東洋カープの本拠地のMAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島に、商業・業務・住居などの諸機能が集積した再開発ビルが新たに加わり、広島の陸の玄関にふさわしい変貌を遂げ、今後もさらなる発展が期待される。

また、広島港のある宇品・出島地区は、海上交通や国際交流・物流の拠点としての役割を担っており、さらに、似島は安芸小富士として知られ、恵まれた自然環境のもと、魚釣りなどのレクリエーション拠点として市民に親しまれている。

人口（人）	世帯数（世帯）	面積（㎢）
142,479	70,394	26.46

人口・世帯数：平成30年12月末現在（住民基本台帳登録による）
面積：平成30年10月1日現在（国土交通省国土地理院「全国都道府県市町村別面積調」による）

黄金山周辺地区

黄金山周辺では山の土砂が住宅街に流れ
込み、多数の被害が発生した。

似島地区

土石流やがけ崩れが発生して家屋が被害を
受けたほか、道路が土砂で埋まった。